

記念講演3

「一人ひとりを大切に 一発達障害のある子どもと学童保育の役割」

木全 和巳さん（日本福祉大学 教授）

【プロフィール】

いまだこの学童保育にも、多くの発達障害のある子どもたちが生活しています。

今回の講座では、学童保育という場における発達障害の子どもたちの理解と支援について、みなさんと考えていきたいと思います。

この時に何よりも大切にしたいのが、本人の視点です。本人が自分のことをどのように理解してほしいのか、こうした理解にもとづいてどう支援してほしいのかについて、よくよく学び合う必要があると思います。もちろん発達途上の子どもたちですから、うまく自分から表現できないことも多々あります。このような時には、支援者、保護者が、これまでの発達障害のある当事者から学んだ特性も含めた本人理解の成果から学びながら、眼の前の具体的な〇〇さんの内面も含んだねがいを受けとめる必要があると思います。

また、支援者は、保護者の自分の子どもに対するおもいや保護者自身のねがいも分けながら、受けとめていくことも、求められます。保護者同士の学習などによる理解も大切ですね。学童保育の場は、子どもたちが異年齢の集団の中で、おやつ作りや遊びなどの文化を介在しながら、からだごとぶつかりつつ、他人や自分を理解しつつ、人間関係の作り方も含めて、学び合っています。こうした時には、発達障害の特性も含め、お互いに学び合うことも大切になります。

この講座では、まずは、本人たちの視点にたった発達障害理解について、発達障害の特性を映像化したNHK特集の一部から、学んでみたいと思います。次に、比較的年齢が近い本人の声、特に本人がどのように自分の発達障害と折り合いをつけようとしているかを母親の理解との違いも含めて、これもNHKの「深夜の保護者会」の一場面から、学び合います。最後に、支援者である指導員の実践記録から、学童保育ならではの子ども理解と支援について、学び合いたいと思います。支援者も保護者も、綴られた実践記録から学ぶということは、何よりも大切だと思います。

こうした学び合いを通して、発達障害のある子どもを学童の一員としてしっかり位置づけた実践から、①指導員と発達障害のある子どもの関係のみならず、②指導員と発達障害のある子どもの父母、③指導員と発達障害のある子どもの学校の担任教師との共同、あるいは、④発達障害のある子どもとともに学童で生活する兄弟姉妹や他の子どもたちとの関係づくり、⑤父母たちとの相互理解の取り組みが大切であることが、確認できます。そして、発達障害のある子どもを中心したこのような取り組みは、一人ひとりを大切にした学童保育の実践になり、子どものみならず、関わる人々のなかに大きな気づきや学び、成長をもたらします。